

町のいろを通信で

東京常呂会 佐藤和美

常呂町は、毎月住民のみなさんに常呂総合支所から「ところ通信」が発行されています。2010年8月発行の中から拾った事柄を幾つか紹介します。

1. きょうの料理、全国キャラバン地元の味をあなたの町から「グッチ裕三がやってくる」日時は9月8日、常呂町多目的研修センターで開催されるとし、NHKが受付としてあり、又9月22日午前11時教育テレビで放送されると広報されている。

2. 「再会と感動の輪を求めて：」と題して、オホーツクサイクリングが7月3日、4日 雄武町から斜里町までの3市大町22キロを走破する「インターナショナル・オホーツクサイクリングが行われ、1回目のゴール地点常呂町では、「サイクルフェスとところ2010」が行われ、お楽しみ抽選会等で盛り上がり楽しんだと記載されておりました。

映画「ハナミズキ」と

ふるさと浜中

ふるさと浜中会

事務局長 栗本修己

「ハナミズキ」という映画をご存知ですか？「青雫のヒット曲「ハナミズキ」をモチーフに、「涙そうそう」の土井裕康監督が映画化したラブストーリーで、すれ違いながらもお互いを想い続ける男女の10年間の軌跡を描いた作品です。

出演は、新垣 結衣、生田 斗真、向井 理、薬師丸ひろ子などです。

映画は、高校時代の2人の出会いからスタートします。舞台は浜中（霧多布灯台）、釧路（幣舞橋）、白糠、根室、厚岸など道東が中心で、東京、ニューヨーク、カナダへと展開します。

ラブストーリーなのですが、素晴らしい道東の自然も併せて堪能できる映画だと思います。特に、霧多布灯台は数回登場しますが、夕日が沈む場面は素晴らしい一言であり、一番印象的なシーンです。私も浜中町で生まれ育ち高校時代釧路で過ごしました。多くのシーンで登場するふるさとが懐かしく、また似たような境遇にあった我が青春時代を思い出しました。

主演の新垣 結衣さんは、ふるさとについて「変わらずにずっとそこにあって、いつでも受け入れてくれる場所や人です」と答えています。

ふるさと、万歳!!

「地産地消」と「地産地唱」

ふるさと置戸会

事務局長 坂本 登

いま、ふるさと置戸では、ふたつの「ちさんちしょう」活動が興っている。ひとつは「地産地消」でもうひとつは「地産地唱」である。

町の学校給食センターの管理栄養士である佐々木十美さんが、フキ等の地元食材を生かした料理の大切さを、自らの実践をもとに「おうちで給食ご飯」として刊行した。同書は高い評価を得て、町内

をはじめ、幅広い地域から購入希望が寄せられている。

一方、町制60周年事業の一環として、「地産地唱おけと歌の祭典」が計画されている。この祭典では、置戸にとなむ歌、校歌、置戸をテーマにした新しい歌などが発表、披露される予定。

これらをCDに作成して、後世に伝えようというもの。この祭典には東京「ふるさとおけと会」メンバーである、南 康弘さんがイメーजनソングを製作、発表、劇団民芸の佐々木梅治さんが祭典のプロローグを飾る構成劇で朗読、声楽家の弓場 徹さんが独唱などで参加協力する。

祭典は12月19日に予定されているが、町制60周年を祝う華やかなビックイベントになるであろうと、町民の期待を集めている。

屋形船での納涼会

東京新冠会

事務局長 武田 雅雄

東京新冠会と東京新冠会は、「屋形船での納涼会」を去る8月28日に合同で実施した。船宿は、東海道の第一の宿場町として広く知れている品川の地、品川も東京湾も時代と共にその姿を変えて来たものの、近代的な日本と江戸の情緒をあわせもつそのような地での開催である。

納涼会当日は猛暑日であったが、涼風が吹く夕暮れ時に出航。この時期の納涼会は、隅田堤の桜、或は火花を見るというような華やかさに欠けるが、それでも船上からの眺め、静かな川面にひととき美しく映

える東京湾の夜景は、一味違う素晴らしい光景である。

加えて、江戸を思わせる情緒ある船内で船宿が用意している一品一品にこだわった美味しい旬の料理とビール等のアルコールに舌鼓を打つ、江戸の風流を偲びつつ粋に遊ぶ屋形船での贅沢な時間、贅をつくすとは、まさにこのことである。

参加者の故郷は若干異なるが、故郷への愛着と想いは誰しも共通するところ、故郷の昔日の盛況な頃の面影を偲びつつ、一方、過疎化が進む中での劇的な発展が期待できない現状にいらだちを感じている。それでも、故郷の話や一緒に上京した友の近況等の話におよぶと時間が経つのも忘れるほど、大変盛りあがる。

時代の変遷を感じながらも、変わらぬものは人の心、昔ながらの屋形船に身を任せ、先人がこよなく愛した風流を、参加者全員が満喫することができた。

最後は、出席者全員が今後のふるさと会の益々の発展を合言葉に、別れを惜しみながら散会、帰路に就く。行事を終えて、二つのふるさと会共通の悩みは、会員の高齢化が進んでいるが故、近い将来、会自体の存続が危惧される。

尤も、今回の一行事に少ないながらも新会員を迎えて実施できたこと、そのことは明日に繋がるひとつの明るい話題といえるかも!!

